

H24. 9. 5

松本市役所の東庁舎2階に、ホテルのような清潔感あふれるトイレがお目見えした。昭和44年に建設されて40年以上がたつ庁舎にあつては「異空間」の趣で、役所を訪れる市民の評判は上々のようだ。市は年度内に、東庁舎（4階建て）の各階のトイレを同様に改修するほか、障害者が利用できる多目的トイレを本庁舎と東庁舎に設ける予定で、利便性を向上させる。

老朽化が著しく、配管の詰まりもあった2階のトイレ（面積28平方メートル）から改修し、3日に使用が始まった。洋式のトイレを増やして便座除菌クリーナーを設置、手洗い場などに小物類を置くスペースを確保した。女性用のトイレには、全身を映す長さ1・5倍の鏡「姿見」も取り付けられた。

市役所トイレ「ホテル並み」 清潔感アップ 松本で改修

手荷物が置ける小便器のスペース(男子トイレ)



鏡が大きい手洗い場。姿見もある(女子トイレ)



仕事で市役所を訪れることが多い松本市和田の会社員・川上健さん(38)は「役所のトイレは古くさい感じがあつた。荷物を置けるし鏡も大きい」と好印象を持っていて、設計施工を一括で受けたルピナ中部工業(松本市宮瀬2)は「節水に力を入れ、臭いが出にくい壁や床にした。子供にも使いやすい設計に配慮したと話す。市契約管財課によると、トイレが汚いといつた苦情が市民から寄せられたこともあつた。「多くの市民が訪れる市役所のトイレを快く使えるようにしたい」と、大掛かりな改修を決めた。予定しているトイレ改修・新設の事業費は約6000万円になる。庁舎を仕事場にする職員の快適性も上がり「きれいだからこそ、さらにきれいに使おう」と話す職員もいるという。同課は本庁舎(5階建て)のトイレについても、来年度に改修するかどうか検討している。

(赤羽洋輔)